

在宅医療のトータルサポートシステムの開発と研究

申請者 勝又正孝
所属機関・職名 社団法人静岡市医師会会長
所在地 静岡市東草深町3番27号
電話 054-245-6136

平成15年2月25日提出

在宅医療のトータルサポートシステムの開発と研究

(1) 目的

静岡市医師会が独自に行った「在宅医療に関する市民アンケート」によると、「在宅医療には、患者緊急時にかかりつけ医と連絡が取れない場合の対策と介護家族への援助が不可欠である。」即ち、この患者本人と家族の不安を解消する対応策の主要な部分は、以下の事項である。

病状急変時の対応

臨死状態における在宅主治医不在への不安感

入院加療が必要なときの入院困難さへの不安

そこで、我々は静岡市の在宅医療を行っている開業医全体で、24時間対応体制を作り、臨死状態に対応するシステムを構築する。また市内の公的病院と協力して、入院を含めた高度医療の展開をスムーズに行えるよう、病状急変時システムも併せ構築する事とした。

(2) 内容

在宅医療支援システム（看取り医当番制度）- グリーンカード -

在宅療養中の患者の家族が在宅での死を希望しているケースで、臨終に主治医に連絡が取れないなど主治医が対応できない場合に、当番医が看取りに立ち会うシステム。

病状急変時対応システム - イエローカード -

地域の中核病院と協力して、在宅寝たきり患者の急変時に対応するシステムで、あらかじめ各自がかかりつけ病院を決めて患者情報を連絡しておき、病状急変時には速やかに入院治療を含めた高度な医療の提供を行う事ができるものである。

かかりつけ医紹介システム

病院入院中の患者が退院するにあたり、在宅医療を希望する場合には、医師会が在宅主治医を紹介するシステムを作り、入院加療からスムーズに在宅医療に移行できるようにするものである。

在宅医療協力医制度

在宅療養中の患者が、皮膚科疾患や眼科疾患など他科の疾患に罹った時に、主治医からの依頼に応じて各科の専門医が往診する。

(3) 経過

平成14年5月、在宅医療支援システム利用者134名、病状急変時対応システム利用者218名及び在宅医療実施会員に対しアンケートを行い、それぞれ45名、107名、90名の回答があった。

この調査から、グリーンカード・イエローカードシステムの評価は、実際に利用した患者家族から概ね「安心できよかった。」という回答に表されていると考えられる。同時に「かかりつけ医の患者家族への説明

が不十分である。」事「ごく限られた市民しかこのシステムを知らず、利用方法もわからない。」といった、今後の問題も明らかとなった。

平成14年6月7日、静岡市医師会在宅医療協議会総会を開催し、このアンケート調査を基に医師会員と病院医師が集会し、各システムの現状と問題点等を協議した。

平成14年9月19日、在宅医療推進のための実地研修会を開催。在宅医療に直接・間接的に携わっている医師・看護師その他スタッフを対象に、総合病院専門医により、「在宅における胃瘻の管理について」及び「在宅における中心静脈栄養について」の2題の研修を行った。

平成14年11月15日、第2回静岡市医師会在宅医療協議会総会を開催。在宅医療実施会員及び、公的病院、消防署の関係者に集まっていた各システムのそれぞれの立場から見た問題点等の事例を検討協議し、また消防救急隊からは救急医療業務の現況についての説明を受けた。

平成14年12月17日、市内保健センター担当者との在宅医療懇談会を開催。

平成15年1月28日、市内訪問看護ステーション担当者との在宅医療懇談会を開催。

平成15年2月1日、本人・家族の健康を守る上でも、そして在宅医療となった時にも、かかりつけ医を持つ事が大切であることを理解してもらうためのリーフレットを作成、イエローカード・グリーンカードの内容も掲載し、静岡市全世帯に市広報とともに配布した。

平成15年2月5日、在宅医療救急搬送について消防署職員と懇談した。

以上各種会合を実施し得た情報を基に、より良い在宅医療を実施していくため、より一層の研究開発を継続して行く。